

当院における COVID-19 関連検査の運用と現状

◎岩代 翔吾¹⁾、野下 七海¹⁾、大和 美里¹⁾、齊藤 祐樹¹⁾、森下 ゆき¹⁾、吉永 英子¹⁾、天本 貴広¹⁾
久留米大学医療センター¹⁾

【はじめに】当院では COVID-19 関連検査として迅速検査(Rp)と PCR を実施していたが、2022 年 2 月に新たに抗原定量検査(Ag)を導入した。Ag の導入に伴い当院での COVID-19 の運用も変更された。今回 COVID-19 運用内容と集計結果について報告する。

【方法】Rp と PCR は 2021 年 4 月から 2022 年 3 月までの 1 年間を対象に月別と年齢別で検査数の集計を行った。Ag は 2022 年 2 月から 3 月までの 2 ヶ月を対象に検査数と導入後の他検査の推移について集計した。また、同日に複数の COVID-19 関連検査を実施した患者で PCR の判定と結果が乖離した症例の検討を行った。

【結果】年間総計数に対する Rp と PCR の月別最大検査数は、Rp,53/378 件(14.0%,2021 年 8 月)、PCR,161/715 件(22.5%,2022 年 1 月)であった。年齢別の検査数は 10 歳未満が Rp,80/378 件(21.2%)、PCR,129/715 件(18.0%)を占め、次いで 80 歳代が Rp,77/378 件(20.4%)、PCR,101/715 件(14.1%)を占めた。Ag の検査数は 938 件(2 ヶ月間)あり、Ag 導入後 Rp の検査数は月平均 36.5 件(2021 年 4 月から

2022 年 2 月まで)から月平均 6.5 件(2022 年 2 月から 3 月まで)と減少したが、年齢別検査数は 10 歳未満で導入前が月平均 7 件で導入後も月平均 5 件と著変は見られなかった。また、同日に PCR と Rp を実施した 321 件中、結果が乖離した 5 件は Rp(-)PCR(+):3 件、Rp(+)PCR(-):2 件であり、同様に PCR と Ag を実施した 44 件中、結果が乖離した 2 件は Ag(-)PCR(+)と Ag(+)PCR(-)であった。

【考察】検査数は県内の感染状況に伴い推移し、重症化リスクのある小児や高齢の患者に多いと考えられる。Ag 導入後の Rp の件数は減少しているが、10 歳未満に対する検査数はあまり変動がなかった。これは Rp で用いる抽出液は小児の発熱の原因となる RS ウイルス等の迅速検査にも使用でき、同時に依頼される件数が多かったためと考えられる。PCR と Ag の結果の乖離については再検査対象設定値の検討を含め、解析を行う予定である。

連絡先 0942-22-6111(内線 269)